

事例1 職業観・勤労観の育成を目指した課題追究学習と評価の工夫

1 ねらい

「現代社会」は、倫理、社会、文化、政治、経済など、様々な角度から現代を捉えるとともに、自己の在り方生き方について考える科目である。しかし、現代は社会の多様化、複雑化が進み、「現代社会」の授業が理論の羅列に陥ったり抽象的になったりしがちで、学習内容と自分たちの生活とを関連付けることが、生徒にとって難しくなっている。そこで本事例では、『社会とのかかわり』と『雇用と今日の労働問題』の単元において、自らの問題として進路選択や職業選択について考えさせ、自分の意見を明確にするとともに、他人の考えも傾聴する活動を通して、生徒にしっかりとした職業観、勤労観を身に付けさせることを目指した。社会が日々変化し多様化する中で、主体的に自己の進路を選択し決定できる力を身に付けさせたい。また、意見の裏付けとしてグラフなどのデータを活用させ、資料活用能力の育成も図りたい。

評価については、学習した内容を踏まえた上で、学んだことを活用して考えさせたり、表やグラフ等の資料を読み取らせたりするなど、断片的な知識を理解するだけでは答えられないようなテスト問題の作成に取り組んだ。なお、実践は第1学年を対象に行った。

2 授業実践

実践1 社会とのかかわり

(1)単元名 現代に生きる青年

(2)単元の目標

生涯における青年期の意義と自己形成の課題について考えさせるとともに、自己実現と職業生活、社会参加等の在り方を考えさせ、現代社会における青年の生き方について自覚を深めさせる。

(3)単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用 of 技能・表現	知識・理解
現代の社会生活と青年の生き方に関心を持ち、自己の生き方について考えようとしている。	青年期の意義と自己形成の課題について多面的・多角的に考察し、現代社会における青年の生き方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。	現代の社会生活に関する諸資料から、学習に役立つ情報を主体的に選択して活用するとともに、現代社会における青年の生き方を追究し考察した結果を適切に表現している。	青年期、自己実現、職業生活、社会参加などについて理解し、その知識を身に付けている。

(4)指導計画

時	学 習 内 容
1	青年期とは
2	青年期を充実させるために
3	自立に向けて
4	社会とのかかわり【本時】
5	私たちの生きがい

(5)本時の目標

職業生活の意義について、資料を活用して考察させ、自分の意見と他者の意見をまとめて適切に表現させるとともに、職業生活の意義と社会参加について理解し、基本的知識を身に付けさせる。

(6)授業展開（導入とまとめは省略した）

段階	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価計画 〔評価方法〕
展開	20分	・ 求人資料を見て、自分が就職するならばどの企業がよいか、理由とともに考える。 ・ グループをつくり、自分が選んだ企業とその理由を発表し合う。 ・ グループの意見をまとめ、ワークシートに記入する。 ・ グループの意見を発表する。	・ 選んだ理由が同じにならないよう、2つの企業を選ばせる。 ・ 選んだ理由が異なるよう、3つの企業を選ばせる。	・ 資料を適切に活用して職業生活の意義を多面的・多角的に考察し、意見をまとめて表現している。 【資料活用 of 技能・表現】 【思考・判断】 〔ワークシート、テスト〕
	15分	・ 職業生活の3つの意義についての説明を聞き、ワークシートに記入する。 ・ 職業生活の意義と関連付けながら、フリーターの問題点とボランティアの意義を考える。	・ グループの意見が、職業の3つの意義のどれに該当するか考えさせる。	・ 職業生活の意義と社会参加について理解し、知識を身に付けている。 【知識・理解】 〔発問、テスト〕
	10分	・ ジェンダーについて理解し、ワークシートのポスターの空欄にあてはまるキャッチコピーを考える。	・ 家庭における社会的性差に気付かせるとともに、望ましい社会参加の在り方を考える。	

(7)実践の概要

学校に来ている求人票をもとに作成した、41企業の事業所名、事業内容、職種及び基本給の一覧表を配付し、就職したい企業とその理由を、まず個人で2つ考させた。その後、グループを作らせ、話し合いにより3つにまとめて黒板に書かせた。実際の求人票を用いたことで、授業に対しての生徒の関心は高く、職業に就くことを自己の問題として考えることができた。「現代社会」の授業でのグループ学習はまだあまり経験がないため、アイスブレイキングの活動を取り入れて、誕生月ごとにグループを作らせたところ、うち解けた雰囲気です話し合いをすることができた。

グループからは次のような意見があげられた。



（話し合いの様子）

就職したい企業	選んだ理由	教師の分類
〇〇寿司株式会社	給料が高いから。月給が一番良いから。	A
	客の笑顔が見たいから。	B
〇〇製菓	お菓子作りが好きだから。給料がいい。	C、A
〇〇スイミングスクール	スポーツが好きだから。楽しく続けられそう。	C
	小さい子が好きだから。	C
医療法人〇〇病院	リストラがなさそう。	A
〇〇ホテル株式会社	調理師に興味があるから。	C
税理士法人〇〇会計事務所	高校で学んだことを生かすため。	C
有限会社〇〇〇美容室	人とふれあうのが楽しそうで興味がある。	C
ホテル〇〇〇	陰でお客様の役に立てるから。	B
〇〇食品株式会社	家から近いから。	該当なし
〇〇信用金庫	簿記が生かせそう。金融だから。	C
株式会社〇〇ホームセンター	家から近くて通いやすいから。	該当なし
〇〇ハム	有名なので。	A
〇〇薬品	経営が安定していて、つぶれなさそうだから。	A
〇〇〇〇電機	家電が好きだから。	C
〇〇製作所	事務がやってみたい。	C

これらの意見を、教師が説明を加えながら、職業生活の3つの意義にあてはめていった。表中のAは経済的自立に関する理由、Bは社会貢献に関する理由、Cは自己実現に関する理由である。

授業を行う前は、生徒からは「社会貢献」につながる意見が出ないのではないかと心配していた。しかし、「お客様の役に立てる」「客の笑顔が見たい」等の理由をあげたグループがあり、スムーズに次の展開に進むことができた。「社会貢献」に関わる意見は、自分の発想にはない意見として感心して聞いていた生徒が多く、多様な考え方があることに気付いたようであった。

生徒は、このような模範解答のない意見交換に、活発に参加していた。意見を戦わせるような話し合いではなかったことも、生徒が安心して意見を出せる一つの要因であったようだ。

一方で、時間配分の難しさという課題があった。ポスターの空欄補充をさせながらジェンダーについて考えさせる学習では、時間が不足し、生徒への説明も不十分で、意図したほど効果が上がらなかった。ワークショップ型の授業には十分に時間を確保する必要があることを痛感するとともに、経験を重ねることで、より短時間で効率良く実施できる可能性があると感じた。



(グループの意見を黒板に記入する様子)



(教師が3つに分類しチョークで色分けした黒板)

■ワークシート(行書体の字は、板書等により生徒に書き込ませる内容の例) -----

VISION 2011

1年 ____組 氏名 _____

1 求人資料の中から、就職したい企業を2つ選んでみよう。選んだ理由も書いてみよう。

選んだ企業		選んだ理由	
選んだ企業		選んだ理由	

2 グループの仲間はどのように考えたろうか、まとめてみよう。

選んだ企業		選んだ理由	
選んだ企業		選んだ理由	
選んだ企業		選んだ理由	

3 「職業の3つの意義」をまとめよう。

①経済的自立…収入を得る→人生設計

②社会貢献…社会的分業に参加→社会とのつながりを実感

③自己実現…個性を磨く→自分の適性にあった職業は生きがいになる

4 「職業の3つの意義」を参考に、次の質問に答えてみよう。

①なぜ、フリーターという進路選択は望ましくないとされるのか、考えてみよう。

経済的自立が難しいから

②なぜ、報酬(お金)を受け取らず働く、ボランティアが盛んになっているのか考えてみよう。

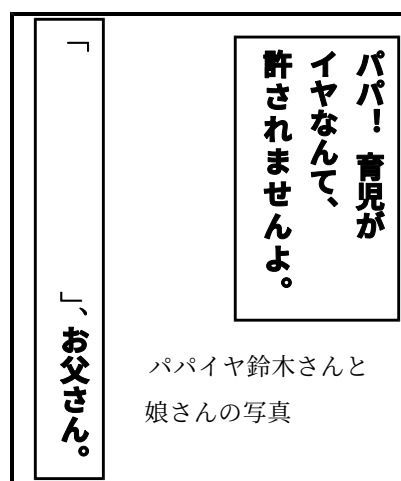
社会とのつながりを実感し、生きがいを感じられるから

5 現在では、女性が社会へ参加する(職業に就く)ことは一般的です。しかし、性差別や偏見、性別による固定的役割分担が根強く、男女が対等な社会の実現には至っていません。どの地域でも、社会や文化によって作られてきた「男性像」・「女性像」があり、このような男性、女性の別を社会的性差といいます。社会的性差自体は悪いことではありません。大切なことは、職場や家庭における時代にそぐわぬ社会的性差を改め、異性を尊重し、助け合うことです。

①社会的性差を別の言葉(カタカナ)では何と言うでしょう。

(ジェンダー)

②波線部の観点から、ポスターの「 _____ 」に言葉を埋め、お父さんに対してメッセージを伝えてみましょう。(※)



(厚生労働省 平成14年度「仕事と家庭を考える月間(10月)」ポスター
厚生労働省HPよりダウンロード可)

(※実際のポスターでは“育児休業をとりましょう、お父さん。”)

(8)ペーパーテストによる評価

この授業を踏まえて、第1学期の期末テストでペーパーテストによる評価を行った。授業で学んだ「職業生活の3つの意義」についての理解度を問うと同時に、その知識だけでは答えられない問題を作成したいと考えた。また、社会参加をしていく上で課題となるジェンダーに関して、資料を読み取りつつ、自分自身の生き方の問題としてとらえさせ表現させたいと考えた。作成した問題は以下の通りである。

問1 次はある曲の歌詞の一部である。 には、占術師(=占い師)の職業の意義を示した歌詞が入る。授業で学んだ「職業の3つの意義」の観点にそれぞれに立って、占術師の仕事の意義を考え、答えなさい。(3つの意義の1つは解答欄に示してあるので、残り2つを考えること)
※ただし、解答と前後の歌詞との関連はなくてもよい。

【解答欄】

1つ目の意義	仕事 です
2つ目の意義	仕事 です
3つ目の意義	仕事 です

【解答例】
(各2点)

自分の生活費を稼ぐのに行う	仕事	です
自分の好きな占いを行える	仕事	です
お客様に元気を与える	仕事	です

ご覧なさい
青い地球は変わらず回ってます
星も輝いてます
さあ学生さん
今はあとさき考えないでおやんなさい
きっとHappy Happy Time will come alone
ぼくなんかは恋を占う街角の占術師です
今日も30人くらい並んでます
 です
きっとHappy Happy Time will come aloneと

問2 近い将来、皆さんの多くは結婚をし家庭を築いてゆくことでしょう。家庭生活において、夫婦が力を合わせることは、とても大切なことです。しかし、「ジェンダー」や「男女共同参画社会」の観点で次の表を見ると、表から問題点を読み取ることができます。この問題点を答えなさい。またこの問題の解決のために、自分が夫(妻)となったらどのような行動をとることが望ましいか、答えなさい。

社会生活基本調査 (総務省統計局) (2006年)

世帯の家族類型別行動時間(総労働時間) (分)

世帯の家族類型 共働きが否か	睡眠	身の回りの 用事	食 事	通 勤 ・通 学	仕 事	家 事	育 児	買い物	その他	
夫の行動 の平均時 間	夫婦共働 き	450	64	96	47	441	11	6	12	313
	妻は無業	454	64	98	55	414	10	12	16	317
妻の行動 の平均時 間	夫婦共働 き	424	80	97	27	270	192	24	35	291
	妻は無業	437	77	106	0	4	275	81	50	410

【解答例】問題点 夫が家事・育児に携わる時間が、妻に比べてとても少ない。
(4点) 解決法 (特に共働き世帯では、夫が) 家事や育児にかかる時間を増やす。

＊曲はKANの「HAPPY TIME HAPPY SONG」、空欄の歌詞は“迷う背中を3000円で押す役目”
日本音楽著作権協会(出)許諾第0901403-901号

問1は、授業で学んだ職業生活の3つの意義という「知識」を踏まえて、さらに、問題の設定に合った「まとめ方（表現力）」をみる問題として出題した。採点基準としては、「社会に貢献する仕事」や「自己を実現するための仕事」のような、教科書の言葉どおりの解答は部分点とし、歌詞の文脈に合った表現ができて正答とした。

「社会貢献」の意義を表現させる問いについては、正答が28%、部分点が59%、誤答が13%であった。また、「自己実現」の意義を表現させる問いでは、正答が63%、部分点が4%、誤答が33%であった。生徒にとっては、「社会貢献」という意義を、占い師の仕事に当てはめて表現することが難しかったようである。主な答例は以下のとおりである。

「社会貢献」の意義を表現させる問題	
正 答	「お客さんの恋の手助けをすることができる仕事」 「他人に幸福をもたらす仕事」「みんなの知りたいことを教える仕事」 「悩んでいる人を次の道へと導く仕事」「他人を励ますための仕事」
部分点	「社会に貢献するために行う仕事」「社会のために頑張る仕事」 「相手のために行う仕事」
誤 答	「人に感謝された仕事」「人とふれあう仕事」「社会でやっていける仕事」
「自己実現」の意義を表現させる問題	
正 答	「自分の持っている能力、占いの力を生かす仕事」「才能を生かせる仕事」 「自分の夢をかなえるために行う仕事」「自分にとってやりがいのある仕事」 「自分に合っていて楽しくできる仕事」「自分の個性を生かした仕事」
部分点	「自己を実現させるために行う仕事」「自分の理想に合った仕事」
誤 答	「自分の生きがいを見つけるために行う仕事」 「他人とコミュニケーションを図る仕事」「嫌なことを忘れるために行う仕事」
その他の誤答	
「お金をためるための仕事」「楽しい仕事」「家族を養う仕事」	

問2は、授業で学んだ「男女共同参画社会」や「ジェンダー」に関する理解を踏まえて、「資料の読み取り、分析」と「筋の通った思考、公正な判断」を評価する問題として出題した。

夫婦の行動時間の表から問題点を読み取らせる問題については、夫婦共働きか妻が無業かに関わらず、「夫の家事・育児に携わる時間が非常に少ない」ことがあげられれば正解とした。問題の解決法について記述させる問題では、自分が妻または夫の立場になったときの自分自身の行動として具体的に書くことができなければ正解とし、抽象的なものには中間点を与えた。

問題点を読み取らせる問題は、正答が63%、部分点が9%、誤答が4%であった。問題の解決法について記述させる問題は、正答が73%、部分点が14%、誤答が9%であり、約6割の生徒が両問ともに正答であった。主な答例は以下のとおりである。

表から問題点を読み取らせる問題	
正 答	「夫婦共働きでも家事は妻がほとんどやっている。」 「家事・育児が、共働きでも無業でも妻の負担になっている。」 「夫の家事・育児の時間が短く、妻にまかせすぎ。」 「家事・育児の時間が妻に、仕事の時間が夫にかたよっている。」
部分点	「妻が無業の時、家事をする時間が夫よりもはるかに多くて不公平。」

誤 答	「性別役割がはっきりとできている。」
	「家事や育児がうまく分担されていない。」
	「共働きにより家事や育児が大変である。」
	「妻と夫の仕事をしている時間。」「家事は女の仕事と決めつける。」
	「家事と子どもの世話が両立できない。」
問題解決のために自分がとる行動を記述させる問題	
正 答	「自分もちゃんと働き、夫と一緒に家事ができるように行動する。」
	「男とか女とか関係なく、仕事も家事も育児もやる。」
	「男性が仕事をする時間を減らし、家事や育児の時間を増やす。」
部分点	「空き時間を利用して手伝う。」「夫も協力する。」
	「一緒に助け合って生活する。」「話し合って決める。」
誤 答	「女性の働く時間を増やす。」「社会に出て働く。」
	「価値観がずれている人とは結婚しないようにする。」

定期テストでのこのような問題は、生徒にとって初めてのことであったが、問1、問2を通して、白紙解答の生徒は非常に少なかった。授業で学んだことが基本になっているため、考える手がかりはあったと考えられ、問題に取り組もうとする姿勢や意欲は高かった。

課題としては、採点の難しさがあげられる。自由に記述させる問題に対しては、多様な表現の解答があり、採点基準の設定に難しさを感じた。問2で読み取らせる資料も、当初はより難度の高いものを目指していたが、採点基準の作成が障壁となり、結果的には比較的平易な問題となった。

実践2 雇用と今日の労働問題②(就業形態の多様化)

(1) 単元名 現代の経済社会と私たちの生活

(2) 単元の目標

現代の経済社会における技術革新と産業構造の変化、企業の働き、公的部門の役割と租税、金融機関の働き、雇用と労働問題、公害の防止と産業保全について理解させるとともに、個人と企業の経済活動における社会的責任について考えさせる。

(3) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
現代の経済社会の諸事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、経済活動の在り方について考えようとしている。	現代の経済社会の諸事象から課題を見いだし、個人と企業の経済活動における社会的責任等について多面的・多角的に考察するとともに、経済活動の在り方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。	現代の経済社会に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を選択して活用するとともに、個人と企業の経済活動における社会的責任や経済活動の在り方について考察したり追究した結果を適切に表現している。	現代の経済社会における技術革新と産業構造の変化、企業の働き、公的部門の役割と租税、金融機関の働き、雇用と労働問題、公害の防止と産業保全について理解し、その知識を身に付けている。

(4) 指導計画

時	学 習 内 容
1	技術革新の進展と産業構造の変化
2	企業の役割と社会的責任
3	市場のしくみ
4	政府の経済的役割
5	財政の仕組みと税金
6	金融機関のはたらき
7	日本経済のあゆみ
8	中小企業の現状と役割
9	日本の農業と食料問題
10	雇用とこんにちの労働問題①(労働基本権、雇用事情の変化)
11	雇用とこんにちの労働問題②(就業形態の多様化)【本時】
12	労働環境の整備、社会保障と福祉社会
13	公害の防止から環境保全へ
14	消費者問題と消費者主権

(5) 本時の目標

近年の就業形態の多様化、特に非正規雇用の増加に対する関心を高め、非正規雇用が増加した理由や背景を資料を活用して多面的、多角的に考察させる。

(6)授業展開

段階	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価計画 〔評価方法〕
導入	5分	・フリーターとは ・フリーターなど非正規雇用の現状	・以前の授業の内容と関連があることを確認する。	
展開	20分 20分	・フリーターとして働く理由を考え、各自紙に書いて黒板に貼る。 ・フリーターとして働く理由の裏付けとして、労働に関するデータを読み取り、クラスメートの多様な意見も参考にして理解を深める。	・自分の問題として考えさせる。 ・貼られた紙を、KJ法的な手法でまとめ、3つの仮説を立てる。 ・労働に関する各種データを利用して仮説を検証する。	・非正規雇用の増加とその理由に対する関心が高まっている。 【関心・意欲・態度】 〔観察〕 ・資料を適切に活用して、非正規雇用増加の理由、背景を多面的、多角的に考察している。 【思考・判断】 【資料活用の技能・表現】 〔ワークシート、テスト〕
まとめ	5分		・黒板に貼られた意見を用いて、非正規雇用として働く理由や背景は様々であることを確認する。	

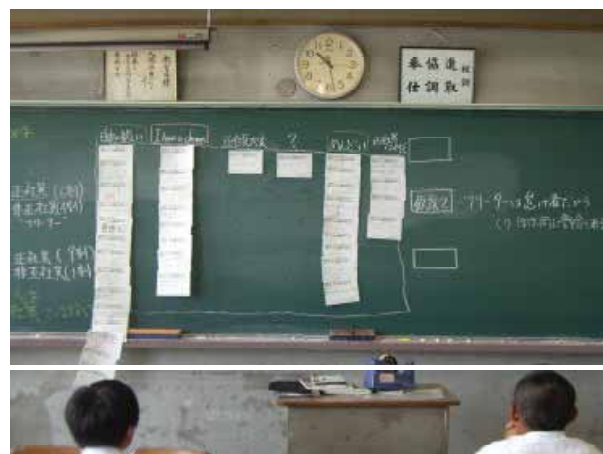
(7)実践の概要

初めにフリーターの定義について確認し、フリーターなど非正規雇用が年々増加し、現在は労働者のほぼ3人に1人が正社員でないことを説明した。現在高校1年生である生徒たちは、早い者は再来年には職業選択の問題に直面する。自分たちの就職や働き方、生き方に関わる問題として考えるよう促した。

生徒に、「なぜフリーターになるのだろうか？フリーターを続けるのだろうか？」という問いかけを記した用紙を配って考えさせ、1人1つの理由を用紙に書かせて、黒板に貼らせた。教師が、貼られた用紙を見て、全体に紹介しながら、似たような意見をまとめて、用紙を並べ替えた。



(生徒が貼った状態)



(教師が並べ替えた状態)

生徒から出た主な意見は、以下のとおりである。タイトルは教師が板書したものである。

タイトル	生徒の意見
①正社員はたいへん、フリーターは楽	「正社員になると大変なことが多いから」 「正社員よりフリーターの方が楽だから」 「仕事が長く続けられないから」
②やる気がない、面倒くさい	「仕事がめんどくさい」「仕事をしたくないから」 「働く気、やる気がないから」「自分に甘いから」
③自由が欲しい	「自由な時間が欲しいから」 「好きな時間に好きなことができるから」 「会社という枠に縛られずに自由に働きたいから」 「正社員ほど仕事をしたくないから」
④就職口がなかった	「正社員になりたくてもなれないから」 「就職先がない」「リストラにあった」 「高卒だと雇ってくれるところが少ないから」 「不景気だから」
⑤自分に合った道探し	「自分に合った仕事が見つからないから」 「自分の夢や、やりたいことがあるから」 「自分のやりたいことがみつかっていないから」
⑥その他（分類できなかったもの）	「資格がないから」 「とりあえず今は生きていられるから」 「親が金持ちなので働く必要がない」

上記①から⑥にまとめたものをワークシートの仮説1、2、3に結び付け、労働に関するデータから、仮説が正しいといえるかどうかを考えさせた。この3つの仮説は、生徒から出てくるであろう意見を予測して教師が立てたものである。

生徒から出た意見では、②「やる気がない、面倒くさい」と③「自由が欲しい」にあてはまるものが多かった。そのため、実際の授業では、最初に、ワークシートの仮説2「フリーターは怠け者だから」をとりあげ、検証させた。「就業形態別仕事と私生活に関する意識」から、「仕事のためには私生活を犠牲にすべきだ」という考えをもつ者の割合は、正社員とパート・アルバイトでほとんど差がなく、「私生活を犠牲にしてまで仕事に打ち込む必要はない」という考えをもつ者の割合は、正社員の方が高いことがわかる。必ずしもフリーターがやる気がなかったり、仕事より自分の自由な時間を優先していたりするとは言えず、生徒の考えは資料からは否定されることになった。

次に、①「正社員はたいへん、フリーターは楽」という意見を、仮説1「正社員の働く条件が厳しいから」に結び付けて、検証させた。「若年正社員の労働時間」から、1週間の労働時間が42時間以下の割合がやや増えている一方で、特に男性正社員で労働時間の長い者の割合が増えていることを読み取ることができた。

最後に④「就職口がなかった」という意見から、仮説3「正社員の採用が減ったから」を導き、「新規学卒入職者の正社員の割合」の資料で仮説を裏付けることができた。

■ワークシート(行書体の字は、板書等により生徒に書き込ませる内容の例) -----

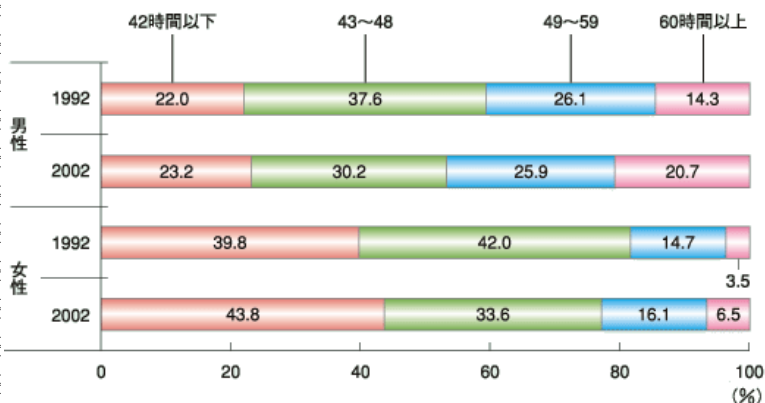
VISION 2011

1年 ____組 氏名_____

【なぜフリーターになるのだろう？】

仮説1 …正社員の働く条件が厳しいから

若年正社員の労働時間(1週間当たり)



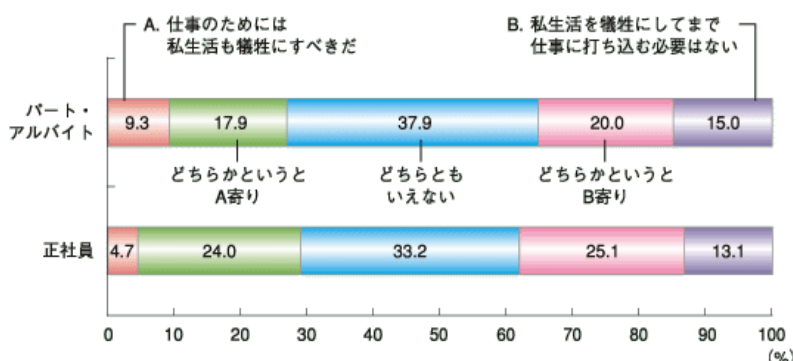
資料で確かめよう

●若年正社員(15～34歳)の92年と2002年における労働時間を比較すると、男女とも1週間の勤務時間が(ア 42)時間以下の者の割合が高まっている一方で、(イ 60)時間以上の者の割合が高まっており、二極化の傾向が見取れる。

(総務省「就業構造基本調査」より)

仮説2 …フリーターは怠け者だから

就業形態別仕事と私生活に関する意識



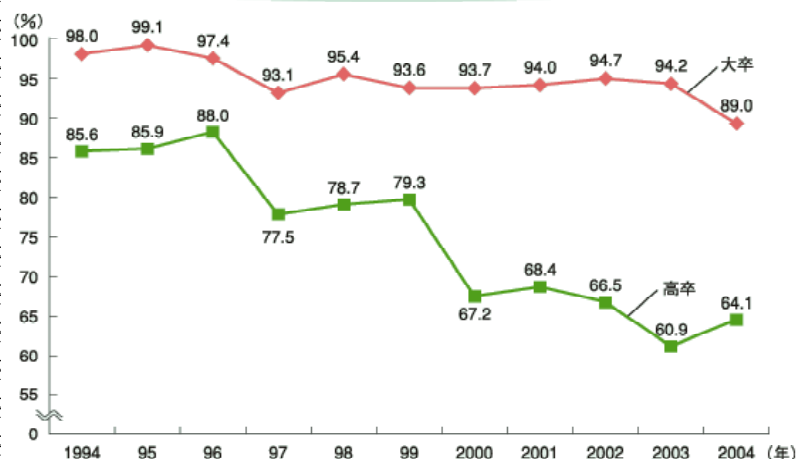
資料で確かめよう

●「職業生活をどのように考えていますか」の問いに対して、「仕事のためには私生活も犠牲にすべきだ」という考え方をもっている若年者の割合は、正社員とパート・アルバイトでは(ウ ほとんど変わらない)。

(厚生労働省「若年層のキャリア支援に関する実態調査」より)

仮説3 …リストラで正社員の採用が減ったから

新規学卒入職者の正社員の割合



資料で確かめよう

●正社員として就職する新卒者割合はここ10年で低下している。これは企業が(エ 新卒正社員採用)を絞っていることによる。このため、正社員を希望してもパート・アルバイトとして就職せざるを得ない者が増えた。

(厚生労働省「雇用動向調査」より)

生徒には、「フリーター＝怠け者」というイメージがあることが予想されたため、いくつかの資料やデータを示し、必ずしもそうではないことに気付かせることができた。生徒は、多様な意見を聞くことで、物事にはいろいろな見方や考え方があることに気付いたようであった。

また、本年度は、例年に比べて課題追究型の授業を多く実施しているため、生徒からスムーズに意見が出るなど、学習活動に慣れてきた様子が見られた。仮説→実証(実験)という手法は、理科などでよく用いられるが、公民科でも同様の手法が行えることが分かった。

(8)ペーパーテストによる評価

この授業を踏まえて、第2学期の中間テストでペーパーテストによる評価を行った。「資料を読み取る力」や「資料と仮説の関連性、整合性を判断する力」を評価できる問題を作成したいと考えた。作成した問題は以下のとおりである。

問8 ^{よしこ}由子さんは、パートタイマーやアルバイトなどの非正規従業員として働くフリーターについて、「その人が怠け者だからフリーターになる」と考えていた。ところが、先日、授業で「正社員として就職できず、仕方なく非正規従業員として働いている人もいる」ことを学んだ。また、「女性は家事や育児を担うことが多く、非正規従業員として働いている人が少なくない」ことも知った。しかし、納得のいかなかった由子さんは、授業の後に自分で資料を調べた。その結果、由子さんは、授業で学んだこれらのことが実態であることを理解した。

次の表は、由子さんが調べた資料である。表のA～Dにあてはまる言葉の組み合わせとして正しいものを、下のア～エから選び、記号で答えなさい。

表 パート労働を選んだ理由の割合(複数回答)ー男女いずれかが20%を超えた回答のみ
パート…パートタイマーだけではなく、週の所定労働時間が正社員よりも短い労働者。

	自分の都合の 良い日(時間)に 働きたいから	勤務時間・日数 が短いから	気軽に働けそう だから	A	B
C	43.1	30.1	31.2	21.8	0.2
D	52.7	40.9	18.4	24.5	20.7

(厚生労働省「平成18年度パートタイム労働者総合実態調査」より作成)

記号	パート労働を選んだ理由	性別
ア	A…家事・育児の事情で正社員として働けないから	C…男
	B…正社員として働ける会社がないから	D…女
イ	A…家事・育児の事情で正社員として働けないから	C…女
	B…正社員として働ける会社がないから	D…男
ウ	A…正社員として働ける会社がないから	C…男
	B…家事・育児の事情で正社員として働けないから	D…女
エ	A…正社員として働ける会社がないから	C…女
	B…家事・育児の事情で正社員として働けないから	D…男

問9 年齢層別に見たわが国の女性の労働力率は、**図1**のように、20代と40代に2つのピークをもつ「M字型」を示している。この「M字型」を、1987年と2002年とで比較すると、特に25～34歳における「落ち込み」が浅くなっている。その理由、背景について、**Aさん～Dさん**は下のように仮説を立てた。

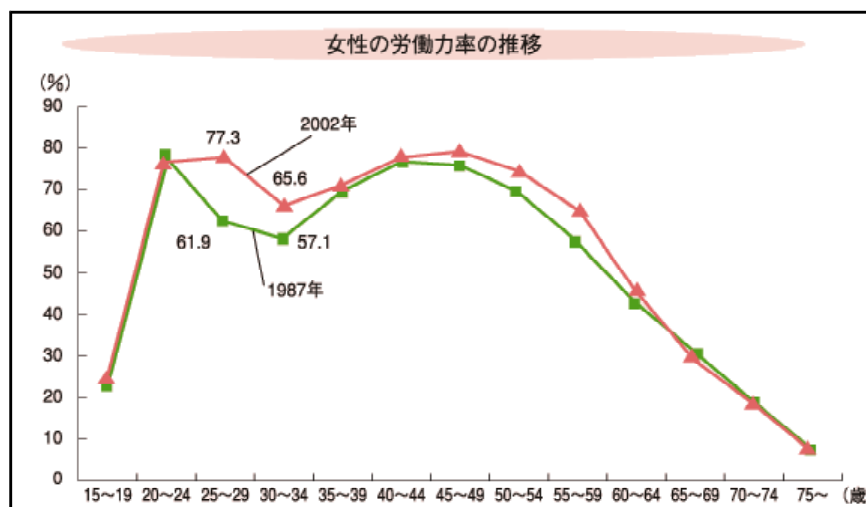


図1 女性の労働力率の推移（総務省「就業構造基本調査」より）

- Aさん** 男性の育児参加が進み、女性が以前よりも早く仕事に復帰できるようになった。
- Bさん** 結婚や出産をしても専業主婦にならず、仕事を続ける女性が増えた。
- Cさん** 子どもを出産する年齢が以前よりも上昇し、仕事を続ける女性が増えた。
- Dさん** 企業で中途採用が増え、30歳を過ぎても女性が仕事に復帰しやすくなった。

次に**Aさん～Dさん**は、自分の仮説を裏付けるため、統計書を調べた。**図2**を仮説の裏付けの1つとして示したのは、**Aさん～Dさん**のうち誰か。

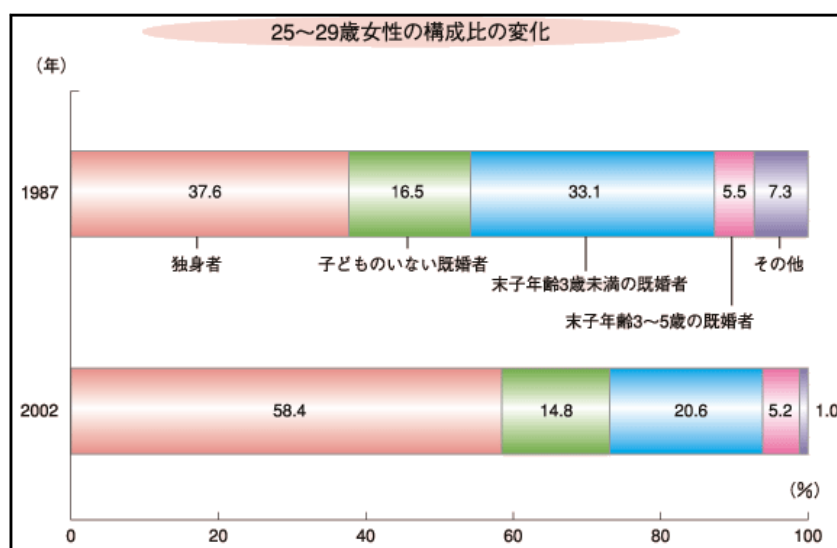


図2 25～29歳女性の構成比の変化（総務省「就業構造基本調査」より）

問8は、「授業後の自学自習」という場面を設定し、授業で学んだ「フリーターになる理由」をもとに、考える過程をなぞった出題とした。問題文中に、「仕方なく非正規従業員として働く人がいる」と「女性は家事・育児を担うことが多く、非正規従業員として働いている人が少なくない」ことの2点を結論として示す。次にその結論の根拠となる資料「パート労働を選んだ理由の割合」を提示する。理由のうち2つ（**A**、**B**）と性別（**C**、**D**）を空欄とし、理由と性別を組み合わせた選択肢を作成して、結論を導くためにはどの組み合わせが適切かを考えさせた。選択肢ごとの解答率は以下のとおりで、正答率は72%であった。

A 14.7% **I** 5.3% **ウ** 72.0%（正答） **E** 8.0%

誤答のうち、**A**は理由の判断を間違えたもの、**E**は性別の判断を間違えたものである。この問題でポイントとなる、男女で大きく割合に差がある**D**の理由を、正しく判断できなかったと考えられる。

問9は、問題文と図1で「女性の労働率を1987年と2002年とで比較すると、25～34歳における落ち込みが浅くなっている」ことを述べ、その理由、背景についての4人の仮説を示す。次に、別の統計資料（図2）を提示し、4人のうち誰の仮説がその統計資料を根拠としているかを考えさせた。選択肢ごとの解答率は以下のとおりで、正答率は56%であった。

A 6.7% **B** 30.7% **C** 56.0%（正答） **D** 6.7%

図2からは、2002年は1987年と比べて、20代後半の女性で、独身者の割合が大幅に増加し、子どものいる割合が減少したことが読み取れる。**C**さんの仮説の「子どもを出産する年齢が以前よりも上昇し」という部分の根拠となるが、結婚や出産との関連から「**B**さん」という誤答が多かったと思われる。資料の読み取りと判断に正確さや緻密さが必要とされる点で、やや難しかったようである。

問8、9ともに、資料を読み取り、それが仮説や結論とどのように結びつくのかを考え、判断させる問題である。授業で学んだことと関連させつつも、「知識」だけでは解けない問題であり、生徒に「資料を活用して考察し判断する」ことを要求するものである。生徒の学習の深化をある程度評価できる問題である。出題資料は、実践1より難易度の高いものを用いることができ、出題方法も択一式として、実践1で感じた採点の困難さ、問題の平易化という課題を解決することができた。

3 まとめ

(1) 成果

本事例では、勤労観、職業観を身に付けさせることを目指した課題追究学習を実践した。授業時数、進度等の制約がある中で、50分の授業時間で実施できることを基本に考えた。授業の方法はKJ法を簡略化したもので、特に目新しいものではないが、いろいろな分野で簡単に応用できる方法であり、本事例で紹介した実践以外でも何度か実施することができた。その中で、生徒は、自分の意見を表明したり正答がひとつでない解答を発表したりすることに少しずつ慣れ、回数を重ねる毎に、授業がスムーズに進められるようになった。今回の実践において、生徒は「現代社会」の学習を自分の生活や生き方と結び付け、進路や職業の選択について主体的に考えることができた。

また、本事例においては、思考力、判断力や表現力やを問うテスト問題の作成を目指した。「空欄への適語補充」、「〇〇は何か」、「〇〇を説明せよ」などの、従来のパターン化した出題形式ではない、断片的な知識だけでは解くことのできない問題を作成したいと考えた。試行錯誤する中で作問の手がかりが得られ、問題の一例を示すことができたと考えている。

作問の中で、教師もまた「学ぶ」ことができた。より深く教材を理解し、今後の指導にも生かせると感じた。また、作問の過程で、出題形式には様々な形があることに気付かされた。「考えさせる」

問題だから「論述式」とは限らず、「選択式」や「空欄補充」の形でも可能であることが分かった。

さらに、断片的な知識だけでは解けない問題を作成することの重要性と必要性を改めて認識した。テスト問題が「知識・理解」を問うものに終始していたのでは、生徒も「覚えればいい」と考えて当然である。テストが変われば、生徒の意識が変わる。また教師自身も、「知識・理解」に偏らない指導と評価を考えて授業を構築するようになり、授業に変化が生まれ、幅広い学力を身に付けさせる指導につながっていくのではないだろうか。

(2)課題

課題追究学習を行う際に留意すべき点として、何のためにこの学習を行うのかを、生徒にきちんと伝えることが大切であると感じた。学習の目標をはっきりさせなかったり、時間がなくなってまとめがきちんとできなかったりしたために、「いつもと違った授業で楽しかった」で終わってしまうことがあった。「活動」だけで終わらないように留意することが必要である。

また、生徒の話し合いを、単なる意見の交換から、討論へと発展させることの難しさを実感した。討論では、相手の意見の優れている点だけでなく、問題点を指摘し合うことが必要であるが、生徒にとっては、問題点を指摘することが難しい。生徒は、相手の意見を否定することで人格まで否定してしまうのではないかと恐れてしまい、思ったことを全て言うことができなかった。時間をかけて、自由に意見を述べ合える雰囲気を作る必要性を強く感じた。

そのためにも、特別の授業ではなく日常的に行う学びの一形態として、課題追究学習に取り組むことが必要である。「学び合い」の経験を積むことで、最終的には、生徒自ら課題を見出していくような課題追究学習を目指したい。

ペーパーテストの作成に当たっては、思考力、判断力などを適切に評価できる問いが作れるかどうかが重要である。素材や資料などの選定、難易度、紙面上のスペースや採点がしやすいかどうかなど、様々な課題があり、作問には予想以上の労力を要した。しかし、ノウハウを蓄積し、教師が作問に習熟することで、より少ない労力で質の高い問題作りを行うことは可能だと考えられる。今回の実践を生かし、今後も様々な単元において、生徒の多様な学力をはかることのできるペーパーテスト作成に取り組みたい。そして、生徒が現代の社会について関心をもって自ら考え、公正に判断し、自分の生き方を主体的に選択できる力を身に付けることができるように指導していきたい。